

## 平成14年度中間期決算関連Q&A概要

### 【全社業績に関するQ&A】

- Q1:** 2002年度通期見通しに関して、今回の決算発表では業績数値の変更はなかったが、この見通しの確度は？通期見通し数値に変更がなかったが、何か不安要因はあるのか？
- A1:** 今年度下期売上高見通し532億円のうち、約10%については今後の受注いかんによります。それらの主な要素として、中国市場での西部地区で投資される通信インフラ構築等による受注状況や、未だ厳しい状況にある欧米市場の動向がポイントとなります。
- Q2:** 下期の受注高は、第3四半期、第4四半期でどのように推移する見通しか？
- A2:** 受注高計画は、売上高同様、上半期との比較で38%増を見込んでいます。季節要因もあり、第4四半期偏重となる見込みです。
- Q3:** 2001年度からの固定費削減は計100億円ということだが、今年度と来年度の固定費額はどのくらいか？
- A3:** 今年度の固定費は625億円の計画です。次年度は600億円程度を見込んでいます。
- Q4:** 今年度上期の売上原価率が、今までになく悪化しているが、製品の利益率の悪化が原因か、或いは何か特殊要因があるのか？
- A4:** 売上原価の主な構成要素は、製品原価（部品材料費・製造労務費）、製造間接費、試験研究費です。弊社では人員削減、投資抑制に努めてきましたが、前年同期と比較して売上が半減したことにより、製造固定費、研究開発費の対売上高比率が上昇したため、結果としてこのような売上原価率となりました。これは、特別に大きな製品売価の引下げ圧力などがあったためではありません。
- Q5:** アンリツのGAP: Global Account Programとしてシスコへのアプローチはあるのか？
- A5:** シスコは弊社にとって非常に重要な顧客であり、現在はKAP: Key Account Program（約50社対象）中の1社として、トップ層間のコミュニケーションを図っています。今後シスコをGAP対象とするためには、弊社とシスコとの2社の各部門間でより緊密なパートナーシップを取る必要があります。

### 【計測器事業に関するQ&A】

- Q6:** 計測器事業を社内カンパニーのフォトニックメジャメントソリューションズ（以降フォトニック部門）とワイヤレスメジャメントソリューションズ（以降ワイヤレス部門）に分けた場合の業績数値の内訳は？
- A6:** 通期の売上高は、2001年度フォトニック部門395億円、ワイヤレス部門225億円、海外子会社内の事業部門266億円で計測器事業合計866億円に対し、2002年度見通しは、フォトニック部門160億円、ワイヤレス部門260億円、海外子会社内の事業部200億円で計測器事業合計620億円となっています。  
通期の損益見通しは、フォトニック部門は未だ厳しい状況ですが、ワイヤレス部門および海外事業部門の収益力で、計測器事業としては営業利益+3億円の計画です。
- Q7:** 決算説明会時のプレゼンテーションでは、W-CDMA<sup>[\*1]</sup>用測定器は、今後研究・開発用途から製造用途にフェーズをシフトするという話だったが、来年度は製造向け測定器の受注をどの程度を見込んでいるのか？
- [\*1]** W-CDMA(Wideband Code Division Multiple Access):次世代移動通信システムの世界標準であるIMT-2000の1つのシステム
- A7:** 現在W-CDMA用測定器でアンリツはシェアNo.1（60%）であり、主力のシグナリングテストは顧客企業の研究開発の初期投資段階で受注ニーズが上がった後も、弊社が提供するPTS（プロトコルテストシステム）ソフトとのシステム需要や機能拡張対応の需要が引き続きあり、製造用途の製品と合わせて、今後も堅調な受注が期待できる見込みです。
- Q8:** 中国市場におけるW-CDMA市場に関して、直近状況および今年度・来年度の見通しは？
- A8:** 中国の携帯電話市場では、現在GSMの勢いが強く、その一方で中・西部地域においては急速にPHSが普及しています。今後の推移としては、GSMからGPRS<sup>[\*2]</sup>へ移行し（今年5月にサービスイン）、その次にくるトレンドはW-CDMAではなくCDMA2000 1xなどのCDMA2000<sup>[\*3]</sup>とみています。そのため、W-CDMAの普及は、2004年度頃ではないかと予想しています。

[\*2] GPRS(General Packet Radio Service):欧州の携帯電話方式であるGSM(Global System for Mobile Communication)のネットワーク上で行うパケット通信サービス

[\*3] CDMA2000:第2世代携帯電話の1つの方式であるcdmaOneをベースにブロードバンド化した、米国が提案した第3世代携帯電話システムの1方式

Q9: IP(インターネットプロトコル)関連のエンジニアは現在何人か?今後のエンジニアの人員目標は?

A9: フォトニック部門の開発技術者の約6割がIP技術を必要とするLAN: Local Area Networkやネットワーク関係の開発に従事しており、今後とも人員増およびスキル向上に取り組んでいきます。

Q10: MD1230Aデータクオリティアナライザの受注が、以前の目標より半年ほど遅れている状況のようだが、何か要因はあるのか?

A10: 当初予定より市場へのくい込みが遅れたのが原因ですが、VAR: Value Added Retailを展開しており、現状では進捗が上がってきています。